

# 令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【浦和中】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	「知識・技能」においては、全体的に高い平均正答率を維持することができた。次年度に向けて各学年・教科で分析・検討を進めていく。生徒たちは日々の学習に意欲的に取り組めており、基礎学力が高いと言える。今後は、各教科の授業で学んだ知識・技能を総合的な学習の時間等で活用する場面を多く設定し、学ぶことの意義や新たな視点をもつことの大切さを指導していきたい。
思考・判断・表現	令和2年度から4年度まで「さいたまSTEAMS教育」、令和4年度、5年度で「教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成についての研究」の研究委嘱(市教委)を受けている。R5年度全国学力・学習状況調査の生徒質問紙「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」の項目で肯定的な回答が95.8パーセントを記録し、「思考・判断・表現」において高い正答率が表すように、結果につながっていると言える。
主体的に学習に取り組む態度	令和5年度さいたま市学習状況調査【生活習慣に関する調査】の「学びに向かう力等」において、市平均と本校の肯定的な回答を比較すると、「勉強は好きですか。」という質問に中学1年、2年、3年において、全てにおいて市平均を上回っている。また、夏休み中に行われる夏期講習では、全生徒が平均7.4コマを受講している。特別授業も多数実施しており、生徒が進んで学習に取り組むことができる環境が整っていると言える。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	R4年度全国学力・学習状況調査の国語・数学の自校結果より、「知識・技能」において、昨年度より5pt以上向上させる。	⇒ 各授業で工夫を凝らし、効果的な学習法を伝えたり、定期的に小テストを実施したりすることで、「知識・技能」の習得を図る。また、「Morning Skill-Up Unit」や放課後学習会、少人数指導をととして、ひとり一人のニーズに対応していく。
思考・判断・表現	R4年度全国学力・学習状況調査の国語・数学の自校結果より、「思考・判断・表現」において、昨年度より5pt以上向上させる。	⇒ 教科等横断的な視野をもち、各教科において、1つの教科の知識だけでなく、他の教科で得た知識を用いて考える発問をすることで、思考力を育てる。そして論理的に説明・表現することができるよう研究、実践する。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査の生徒質問紙「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」という項目で、肯定的な回答90パーセントを上回る。	⇒ 「個別最適な学び」「協働的な学び」を充実させ、実際の問題に即し、自ら考え、探求することで、課題解決能力の向上を図る。そして、自分の考えや意見を他の生徒に自信をもって伝えることができるよう指導する。

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	令和4年度全国学力・学習状況調査の自校国語の平均正答率は、全国平均の+20.6ptのだったが、令和5年度令和4年度全国学力・学習状況調査の結果は、+24.3ptだった。令和4年度と5年度を比較すると+3.7ptだった。目標の+5ptには届かなかったが、高い水準を維持することができている。	A
思考・判断・表現	令和4年度全国学力・学習状況調査の自校国語の平均正答率は、全国平均の+25.7ptのだったが、令和5年度令和4年度全国学力・学習状況調査の結果は、+26.3ptだった。令和4年度と5年度を比較すると+0.6ptだった。目標の+5ptには届かなかったが、高い水準を維持することができている。	B
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査の生徒質問紙「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」という項目で、肯定的な回答が90パーセントを上回った。本校では各学年の総合的な学習の時間において、課題解決型学習を設定しており、生徒が他と協力して調べ発表する活動を積極的に行っている。	A

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	R5年度とR4年度の全国学力・学習状況調査の「知識・技能」の全国平均正答率と自校の結果を比較すると、国語+3.7pt、数学+5.8ptであった。英語のR5年度の自校と全国の平均正答率を比較すると+42.6ptであった。問題ごとの正答率もほとんどが90%を超えており、どの教科も高い水準にあると言える。
思考・判断・表現	R5年度とR4年度の全国学力・学習状況調査の「思考・判断・表現」の全国平均正答率と自校の結果を比較すると国語+0.6pt、数学+2.8ptであった。英語のR5年度の自校と全国の平均正答率を比較すると+40.2ptであった。しかし、数学と英語において、自分の言葉で説明する問題に課題があることが分かった。各教科で学習した「知識・技能」を活用して、考えを表現する授業を展開していきたい。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査「1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目の、肯定的な回答の割合は95.8%で目標値より、5.8%上回った。今後も生徒の創造性を育むような課題解決型の学習に取り組んでいきたい。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)
- ③分析共有(児童生徒の実態把握)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析	
※令和5年度のさいたま市学習状況調査結果は参考値扱いとなります。	
中1	「知識・技能」において、全ての教科で市平均正答率より大きく上回っている。特に数学では+30以上だった。「思考・判断・表現」でも全ての教科で市平均を大きく上回り、特に数学では+40以上だった。また、学習指導要領の領域等別の正答率では、全ての項目で市平均より+3以上上回っている。【生活習慣に関する調査】の「学びに向かう力等」において、「勉強は好きですか。」の項目で、全ての教科で肯定的な回答をした生徒が8割以上だった。今後も生徒の学習意欲を高めていけるような指導に学校全体で取り組んでいきたい。
中2	「知識・技能」において、全ての教科で市平均正答率より大きく上回っている。特に数学では+29以上だった。「思考・判断・表現」でも全ての教科で市平均を大きく上回り、特に数学では+35だった。また、学習指導要領の領域等別の正答率では、全ての項目で市平均より+3以上上回っている。【生活習慣に関する調査】の「学びに向かう力等」において、「勉強は好きですか。」の項目で、全ての教科で肯定的な回答をした生徒が8割以上だった。今後も生徒の学習意欲を高めていけるような指導に学校全体で取り組んでいきたい。
中3	【生活習慣に関する調査】の「学びに向かう力等」において、「勉強が好きですか。」という質問で、全ての教科で市平均を大きく上回り、また「学習状況」の項目では、「授業の内容は分かりますか。」という質問でも、全てで市平均を大きく上回った。授業が分かるということが、勉強を好きになる上でとても重要になる。これが学力の向上につながると考える。一方で「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。」という質問では肯定的な回答が6割程度に留まったため、今後は自主的にも学習を進められる生徒の育成に努めたい。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ 変更なし
思考・判断・表現	変更なし	⇒ 変更なし
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒ 変更なし